

特257

668

西王母

昭和改訂版
外四

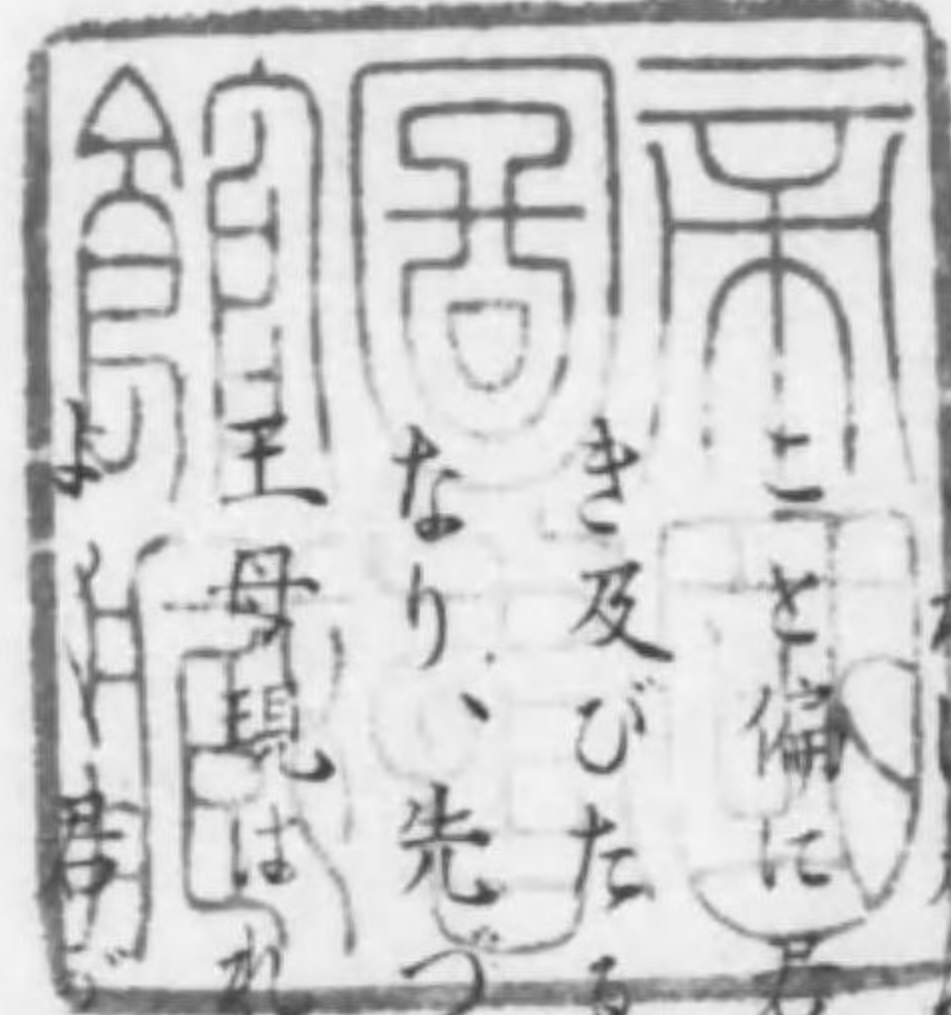


始



西王母

(梗概) 三皇五帝の昔より此方かゝる例はよもあるまじとさへ思はる、
 聖代の君臣相和し泰平をことほげる所に、一人の女緋桃の枝を持ち、
 「これは是れ三千年に唯一度花咲き實成る桃花なるが今此御代に花咲く
 こと偏に君の御威光なれば、捧げまゐらするなり」と言ふ。
 き及びたる西王母が園の桃りと尋ぬれば、まことは我を西王母の身
 なり、先づ歸りて花の實をも現すべしと言ひ上天せり、やがて彼の西
 王母現はれ、銀の鉢に不思議の桃の實を載せて捧げ且つ舞を奏し、い
 代の千秋萬歳を祝ふ目出度き曲なり。



シテ	西王母
後シテ	前シテ同
ツレ	侍女
ワキ	帝王
ワキツレ	大臣二人
所	唐士
季	春

西王母

^{サシ}わき^上.....
 雷^雷序^序み^み籍^籍や^や三^三白^白五^五帝^帝の昔^昔より今^今け^け時^時よ
 ぶ^ぶる^るた^たし^しは^は例^例の^のあ^ある^る.....
 清^清威^威光^光を^を日^日れ^れど^どく^くを^を清^清ら^らに^に免^免れ^れど
 く^くに^にゆ^ゆい^いの^のに^に度^度ま^まは^はる^るを^をみ^み.....
 かな^{かな}や^やあ^あら^らた^たよ^よみ^みち^ちく^く.....
 小^小原^原れ^れ共^共ま^まる^る.....

ホクシン キヤウ

ぬい^ハの^ハぐ^ハ—^ハ美^ハ天^ハふ^ハめ^ハぐ^ハほ^ハ里^ハれ^ハぬ^ハく^ハ百^ハ
 官^ハの^ハお^ハお^ハお^ハあ^ハや^ハ子^ハ戸^ハ方^ハ戸^ハの^ハ積^ハを^ハい^ハな^ハ
 び^ハり^ハ—^ハ群^ハを^ハい^ハり^ハて^ハい^ハる^ハの^ハこ^ハも^ハい^ハは^ハむ^ハ
 ぐ^ハら^ハく^ハ—^ハ市^ハを^ハい^ハる^ハ—^ハ金^ハ銀^ハ珠^ハを^ハ光^ハを^ハい^ハる^ハ
 光^ハ明^ハく^ハを^ハい^ハる^ハ—^ハ日^ハを^ハい^ハる^ハを^ハい^ハる^ハと^ハい^ハふ^ハ
 え^ハま^ハい^ハり^ハか^ハつ^ハい^ハは^ハた^ハめ^ハ—^ハは^ハた^ハえ^ハと^ハい^ハふ^ハと^ハい^ハふ^ハ

樂^ハい^ハも^ハど^ハう^ハあ^ハい^ハる^ハこ^ハ—^ハ上^ハ梅^ハ李^ハを^ハい^ハる^ハ
 志^ハも^ハた^ハの^ハつ^ハう^ハう^ハを^ハい^ハる^ハを^ハい^ハる^ハ—^ハ上^ハ
 隙^ハも^ハる^ハ—^ハ上^ハ面^ハを^ハい^ハる^ハを^ハい^ハる^ハの^ハ時^ハを^ハ
 花^ハの^ハい^ハろ^ハう^ハう^ハぬ^ハあ^ハる^ハは^ハの^ハ水^ハれ^ハん^ハう^ハる^ハあ^ハあ^ハあ^ハ
 花^ハの^ハい^ハろ^ハう^ハう^ハぬ^ハあ^ハる^ハは^ハの^ハ水^ハれ^ハん^ハう^ハる^ハあ^ハあ^ハあ^ハ
 花^ハの^ハい^ハろ^ハう^ハう^ハぬ^ハあ^ハる^ハは^ハの^ハ水^ハれ^ハん^ハう^ハる^ハあ^ハあ^ハあ^ハ

うはらふおまのあはれ人乃らるのまゝあら
 ぬ ヤラハ 夫よ乃 たの—おぬくれ
 ぬとまじむらふ年いふれおのちいおまのた
 牙は程とほまなく ヤア 誠を我しそあま女乃
 分 ヤラ 夫よ先づつこるの愛をまもぬこし
 せいと夫よまじよつちるはにぞいづつおひ

同上
 禾
 下リ明

ける ヤア 中入 ヤラ 是さあ—まの事あつるあ
 王女の真此愛哉も—やなば—あまぞ
 と 上人 上 線竹呂律のあういよ—
 ちあ—してさる樂乃あうはいする夫はり
 せよ此通ひ路んせよあいの曲ひ路んせよ
 西白や— ヤア けは天仙理日くを来

カ

カ

わめれ共でも雲霧もたふたふたあ
 ぐく雲の花鳥春風うたうつ雲
 後よりうまふと女も伴ひよちか
 王母もとのまひのなるやあまのちか
 行書も志すほどあまのける

昭和九年五月一日納本
昭和九年五月五日發行

定價金五拾錢

東京市下谷區上根岸町八十二番地

著作者 寶生新

東京市京橋區銀座西六丁目三番地

發行兼印刷者 江島伊兵衛

著者權所有



發行所 下掛寶生流謄本刊行會

終

